



住み続けられるまち武蔵野へ！

〒180-0006 武蔵野市中町1-2-3 ミタカハイム501
TEL 0422-50-0696 FAX 0422-50-0697
livable.musashino@gmail.com
<https://musashino-citizen.com>

2021年8月21日発行

討議資料



住み続けられるまち武蔵野へ！



いのちを守り育む 武蔵野を！

松下市政1期目の振り返りとさらなる未来へ

9つのまちづくり宣言と
具体的政策提案

討議資料





いのちを守り育む武蔵野を！

松下市政1期目の振り返りとさらなる未来へ

コロナ禍に立ち向かって

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、私たちの社会に未曾有の困難をもたらしました。当たり前と思われていた平穏な日常が失われ、先の見えない不安が広がる中、命と暮らしを守り支える「公共」の役割の重要性が改めて注目されています。

こうした状況に際して、武蔵野市は松下市長のリーダーシップの下、「誰も取り残さず、命と暮らしを守る」という信念に基づいて、積極的な取り組みを行ってきました。

例えば市民の生活応援と市内事業者支援を目的に、全在住市民に5千円の「くらし地域応援券」を配布しました。また、2021年度の都市計画税を13億

3千万円減税、これに連動して吉祥寺商店街の地代・家賃が減額され、街の経済を守ることにつながりました。

最近では、井の頭公園でのオリンピックのパブリックビューイング開催に対し、感染拡大防止の観点から東京都に正面から反対意見を表明するなど、国や都へもブレることなく、是は是、否は否として声を上げています。

都市計画税減税	1,327,000
武蔵野市くらし地域応援券	637,000
中小企業者等緊急支援金	529,000
ワクチン個別接種医療機関支援	225,000
PCR検査センター設置・検査助成	140,000
子ども子育て支援特別給付金	90,000
ひとり親家庭等支援臨時給付金	30,000

主なコロナ対策施策とその予算規模（単位:千円）

いのちを守り育む武蔵野を！ 松下市政1期目の振り返りとさらなる未来へ

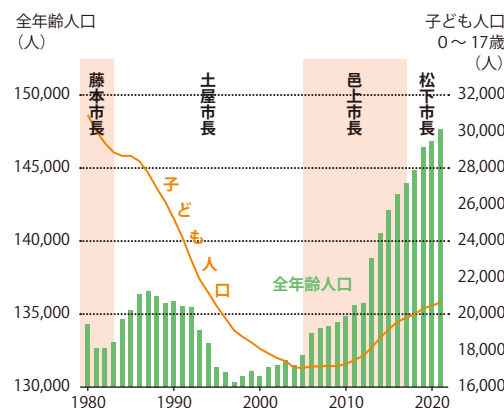
着実な政策実現で人口が増加

松下市政は、コロナ禍と果敢に闘うと同時に、自らの公約も確実に実現しています。

保育園待機児童ゼロは着任3年目の2020年4月に達成し、2021年度も継続しています。定員数の面でも、この4年間に認可保育所を14か所新設し、1963名から2961名へと1000名近くの増員を果たしました。

また、今年度からは18歳までの子どもの医療費無償化（今年度は入院費のみ無償、来年度からは通院費も含めて全て無償）を実現しました。

こうした切れ目のない子ども・子育て応援政策が心をつかみ、「子育てするなら武蔵野市」と、新たに転入する子育て世代が増えた結果、武蔵野市の人口はこの4年間で14万3964人から14万8213人へと増加しました。



武蔵野市の全年齢人口と子ども人口の推移

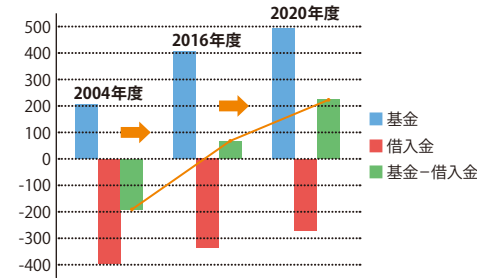
少子化が我が国の大きな問題でもある中、安心して子どもを産み育てるための施策により、人口増加、税収増加ともなり、新しい施策が実行できるという好循環を生み出しています。

224億円の黒字財政を実現

武蔵野市のこの間の財政状況の推移に着目してみると、2004年度（土屋元市長の最後の年）末には基金（貯金）合計が205億円、借入金（借金）合計が396億円で、差し引き191億円の債務超過状態（赤字）でした。

それが、邑上前市長の3期12年間の市政によって、2016年度末には基金405億円、借入金337億円と逆転し、差し引き68億円の黒字に転換。

さらに、この4年間の松下市政により、2020年度末には基金493億円、借入金269億円、差し引き224億円の黒字と、156億円もの積み増しを果たして、極めて良好な財政状況を実現しています。



武蔵野市の財政状況の推移（単位:億円）

今求められる「公共」の再生

昨今、国や地方自治体では「自助・共助で足りないところだけを助けるのが公の役割」「民間に任せの方が効率がいい」として、どんどん公共の機能を減らしていく流れが主流でした。

しかし、保健所や公立病院を急激に削減した結果、欧米諸国に比べコロナ感染者の数は少ないにもかかわらず、医療崩壊に近い状態となり、有効な治療を受けられないまま亡くなる方が出してしまうなど、あってはならない悲劇が数多く見られました。

コロナ禍の今、「公共」には命と暮らしを守る代えがたい役割があることが再び認識され、後退させてしまった機能を再生しようという動きが全国で始まっています。

いのちを守り育む武蔵野を

こうした状況の中で、改めて高い評価を受けているのが武蔵野市政です。松下市政はこの4年間の実践を通じ、一貫して「市民の命と暮らしを守るために公共(市)がある」ことを高く掲げてきました。

例えば、多くの民間保育園の開設を援助する一方で、市立保育園を4園残し、19年間途絶えていた「市職員としての保育士4名の新規採用」を行いました。障がい児保育などを担い、保育

の質を高める保育園ネットワークの中軸として、市立保育園に大きな期待が寄せられます。また、中央図書館も民間委託せず、市民の知的インフラとしての市立図書館を維持・発展させることを決めました。これらはいずれも市が市民の生活を支える主体として、責任をもって役割を果たしていくという決意の現れに他なりません。

危機に直面した時ほど、何が本当に正しいのかが明らかになります。

コロナ禍の困難を乗り越え、誰も取り残されず不安を感じることなく生きていける社会を取り戻すためには、松下市政の4年間で指し示された「責任ある公共」という方向性をさらに確実に前に進めていくことが必要です。

私たち「住み続けられるまち武蔵野へ！」は、引き続き松下市長とともに力を合わせて、いのちを守り育む武蔵野のまちの実現を目指していきます。

課題と政策

武蔵野市政のこれまでとこれからを展望し、テーマ別に課題を整理した「9つのまちづくり宣言」と、特に重点的に取り組むべき内容を抜き出した「緊急課題と重点政策」をまとめました。次のページからご紹介していきます。

緊急課題と重点政策

■ コロナ禍から命と暮らしを守るまち

感染症対策の要である保健所の武蔵野・三鷹地域での復活を都に求めます。

■ 子ども子育て応援宣言のまち

子どもの権利条例を制定し、子どもたちの相談窓口を充実させます。

■ ひとりでも安心して暮らせるまち

在宅療養を支援し、24時間・365日、いつでも必要な医療と介護が受けられるようにします。

働く場・地域活動・スポーツ環境の充実で、健康長寿を推進します。

■ 脱原発、脱炭素、緑あふれるまち

気候市民会議を設置して、気候危機打開武蔵野市民活動プランを作ります。

■ 災害に備える安心・安全なまち

安全が確認され住民の理解が得られるまで外環道工事再開を認めません。耐震や耐風害、耐水害の防災対策を強化し、安全なまちをつくります。

■ 多様性を認め合い、平和と文化を育むまち

武蔵野市パートナーシップ制度を条例化して、すべてのひとの人権が守られ、互いに尊重しあえるまちを目指します。

武蔵野市平和の日制定10周年を記念し、平和の大切さを広く発信します。

■ より進んだ市民参加に挑戦するまち

武蔵野市自治基本条例に基づき、常設型住民投票制度を確立します。

■ 個性かがやく魅力と活力のあるまち

まちの中で人や事業者をつなぎ、産業をさらに振興させます。

■ 健全財政を市民のために活かすまち

すべての世代の市民の居場所となるような、武蔵野公会堂のリニューアルを市民参加で検討します。

コロナ禍から 命と暮らしを守るまち

新型コロナウイルス感染症は、未だ収束のめどが立たず、長く影響が続くと考えられます。こうした状況に対し、武蔵野市では市民の暮らしを守るため、補正予算を組んで緊急的な取り組みを行いました。基礎自治体は、命を守る最前線。市民の命と暮らしを守るため、国や都に対しても臆することなくもの言う市長であり続けます。

市民の暮らしと経済を守る

コロナ禍で市民の生活にも困窮が広がる中、家計支援と地域経済の振興を目的に一人あたり5千円の**くらし地域応援券**を発行しました。利用率は9割と好評でした。また、経済状況の悪化を踏まえ**都市計画税の減税**を実施。商業地域の家賃相場が下がるなどの波及効果が見られました。市内事業者への支援としては、**中小企業者緊急支援金**や**家賃補助**などにも取り組みました。個人世帯に対しても**市民税・国保税の支払いの猶予**、さらには**子ども子育て支援特別給付金**や**ひとり親家庭等支援臨時給付金**の支給を行いました。



くらし地域応援券

ワクチン接種を確実に行う



ワクチンの集団接種

ワクチン接種では、都の配分計画で最も遅い第4グループとされたため、1か月程開始が遅れましたが、十分な準備の上確実に取り組みました。当初は予約が集中し、繋がりがづらい状況もありましたが、改善を重ね重症化リスクの高い高齢者から**市内3か所での集団接種**を進めました。5月末からは医師会と協力し、**医療機関での個別接種**も始まりました。

国や都に対する働きかけ

2021年夏のオリンピックに際しては、感染拡大抑止のために、東京都に**井の頭公園でのパブリックビューイング中止**を要請しました。また教育委員会で検討の上、**学校連携観戦中止**も打ち出しました。いずれも命と健康を守ることを最優先に考えての決断でした。今後も、**保健所の復活**など、国や都に対して必要な声をあげ、働きかけていきます。



多摩府中保健所武蔵野三鷹地域センター

コロナ対策：主な取り組み

- 「武蔵野市くらし地域応援券」発行（在住市民1人あたり5千円）
- 21年度都市計画税減税（総額13.3億円）
- 「中小企業者等緊急支援金」（最大60万円）
- 「中小企業者等テナント家賃支援金」（最大60万円）
- 「商店会活性出店支援金」（最大60万円）
- PCR検査の拡充
- 介護職・看護職 Reスタート支援事業
- 「感染症指定及び救急医療機関支援補助金」
- 「子ども子育て支援特別給付金」（対象児童1人につき10万円）
- 「ひとり親家庭等支援臨時給付金」（対象児童1人につき3万円）
- 市民税・国保税の支払い猶予

コロナ対策：今後の課題

- 新型コロナワクチンの安全で確実な接種の推進
- 武蔵野市・三鷹市に保健所を復活させるべく都に働きかける
- 生活困窮者支援の継続
- コロナ禍で困難な状況に置かれた文化やスポーツ、市民活動の支援



子ども子育て 応援宣言のまち

2017年の市長選挙に際しては「子ども子育て応援宣言」をスローガンに掲げ、社会全体で子育てを応援する温かなまちを目指すことを訴えました。当選後はその実現に取り組み、2020年4月についに保育園待機児童ゼロを達成しました。こうした実績も評価されて、武蔵野市ではこども人口、全年齢人口ともに着実に増加が続いています。

松下市政 1期目の実績

- 4年間で認可保育所14か所新設、998名の定員増で待機児童ゼロを達成
- 保育施設の使用済み紙オムツの回収
- 幼稚園入園補助金の増額（3万円から5万円へ）
- 全市立小中学校体育館へのエアコン設置
- 全市立小中学生に学習者用タブレット型パソコンを配布（貸与）
- 学童クラブ対象障がい児を6年生まで拡大
- 18歳までの医療費無償化（21年度は入院費、22年度から完全無償化）
- 不登校生徒のためのサポート拠点「むさしのクレスコーレ」開設

武蔵野市政 次の目標

- 「子どもの権利条例」を制定し、子どもの相談機関を開設
- 市立保育園を核として保育の質の向上に取り組む
- 「0123」への4、5歳児受け入れと時間延長
- 子どもたちへのICTリテラシー教育の推進
- 部活動指導員や専科講師の独自加配で目の行き届く学校へ
- 長期休暇中（夏休みなど）の4、5年生の学童クラブ受け入れ



ひとりでも 安心して暮らせるまち

「高齢になっても、障がいを持っても、住み慣れた家や地域で暮らし続けたい」という声に応えるため、地域密着型で看護ケアと訪問介護、通い、泊まりの機能を組合わせた「看護小規模多機能型居宅介護施設」の開設に取り組んでいます。また、元気な高齢者の健康長寿を推進するために、働く場、地域活動、スポーツ環境などの充実を図ります。

松下市政 1期目の実績

- 福祉総合相談窓口の開設
- 「地域包括ケア人材育成センター」開設
- 看護小規模多機能型居宅介護施設「ナースケアたんぼぼ」開設
- 「サンセール武蔵野」（介護老人保健施設100床、通所リハビリ60名、訪問看護ステーション30名＋障がい者グループホーム）開設
- 入所型障がい者生活支援施設「わくらす武蔵野」開設
- 障がい児通所支援施設「放課後デイサービスパレット」開所
- 「みどりのこども館」を児童発達支援センターとして整備

武蔵野市政 次の目標

- 看護小規模多機能型居宅介護施設のさらなる開設
- 急性期の病変に対する支援の充実（レスキューヘルパーなど）
- 障がい者の雇用、社会参加の機会拡大
- 成年後見制度や専門家の支援で親亡き後の障がい者の暮らしを支える
- 元気な高齢者の活躍プランの策定（人材バンク制度など）
- 平井医院跡地（吉祥寺東町）を活用した医療と食の居場所づくり



脱原発、脱炭素、 緑あふれるまち

武蔵野市のごみ処理施設であるクリーンセンターは、稼働から33年目となる2017年に全面的建て替えを行いました。旧施設の一部は改修を行った上で、環境啓発施設「むさしのエコreゾート」として再スタート。子どもたちを含めた多くの市民とともに、環境について考え、学びながら、持続可能な生活スタイルを広げる拠点としていきます。

松下市政 1期目の実績

- 新クリーンセンターの建設事業完成
- 環境啓発施設「むさしのエコreゾート」の開設
- 武蔵野クリーンセンターのごみ発電を核とした「エネルギー地産地消プロジェクト」の開始
- 市内JR三駅の駅前に閉鎖型喫煙所（喫煙トレーラーハウス）設置
- 「武蔵野市緑の基本計画」の改定
- 「吉祥寺東町農業公園」の開設
- 2050年ゼロカーボンシティの表明
- 「脱原発をめざす首長会議」世話人兼任

武蔵野市政 次の目標

- 「気候市民会議」を開催して、気候危機打開武蔵野市民活動プランを作成
- 緑を守り育てるための旧赤星邸（吉祥寺本町）の活用
- 雑木林再生への取り組みを進める
- 仙川を活用して緑の空間を創出する
- 「むさしのエコreゾート」のさらなる活用



災害に備える 安心・安全なまち

調布市で起きた東京外郭環状道路（外環道）トンネル工事に伴う陥没事故は、吉祥寺東町・南町で同様の工事が予定されている武蔵野市にとっても深刻な問題です。市民の命と財産を守るため、工事の停止と徹底した原因究明を求めます。また、ゲリラ豪雨による都市水害、近年深刻になってきた風害への対策も喫緊の課題として取り組みます。

松下市政 1期目の実績

- 小型街路灯のLED化
- 道路や街路灯の不具合をLINEで通報する「道路通報システム」の導入
- 危険なブロック塀の改善に対する補助制度の充実
- 市の補助による商店街などへの防犯カメラ設置拡大
- 「NEXT吉祥寺」の改定
- 「都市計画マスタープラン」の改定
- 駐輪場利用方法変更による2時間無料制度導入と一時利用枠拡大

武蔵野市政 次の目標

- 東京外郭環状道路（外環道）の大深度地下工事は、安全が確保され住民の納得が得られるまで認めない
- 外環の2（地上部街路）の建設には反対
- 耐震や耐風害、耐水害の防災対策を強化
- 地域防災の充実・自主防災組織への一層の支援
- 改定した「都市計画マスタープラン」で豊かな機能とデザインを生み出すまちづくり

多様性を認め合い、 平和と文化を育むまち

あらゆる人に居場所があり、いきいき活躍できる共生社会の実現に向けて、足元の武蔵野市から取り組んでいきます。また2021年は、戦争体験を語り継ぎ平和な社会を実現することを目指して設けられた「武蔵野市平和の日」の制定から10年となる節目の年です。この機に際して、改めて世界へ平和を求める声を発信していきます。

松下市政 1期目の実績

- 「武蔵野市文化振興基本方針」策定
- 性の多様性を理解し尊重する「レインボームサシノシ宣言」
- 「武蔵野市ふるさと応援寄附」制度の開始
- クラウドファンディング活用促進事業
- 「青少年平和交流派遣団」として長崎市への中高生の派遣を再開
- 「全国首長九条の会」結成に参加し、共同代表に就任

武蔵野市政 次の目標

- 武蔵野市パートナーシップ制度を条例化
- 「武蔵野市平和の日」制定10周年記念事業
- 核兵器禁止条約に自治体として参加表明し、国に参加を強く要請する
- 日本国憲法啓発普及事業
- 平和事業における市民活動団体との協働の一層の推進
- 「武蔵野ふるさと歴史館」の公文書館としての役割充実
- 旧赤星邸（吉祥寺本町）を活用した文化発信事業の推進
- 多文化共生の促進、国際交流の活性化

より進んだ 市民参加に挑戦するまち

武蔵野市における市民自治のさらなる推進を目的として、2020年3月に「武蔵野市自治基本条例」を制定しました。これは「計画に基づく市政運営」、「情報共有」、「市民参加」、「協働」の4つを基本原則に、市民自治及び市政運営に関する基本的な事項を定めたものです。次のステップとして常設型の住民投票制度の確立を目指します。

松下市政 1期目の実績

- 「武蔵野市自治基本条例」制定
- 「第六期長期計画」策定
- タウンミーティングを発展させた「市民と市長のふれあいトーク」開催（テーマ別・地域別など2021年7月までに15回実施）
- LINEを活用した市政情報の発信
- 市議会常任委員会のインターネット中継
- AI-OCR（人工知能を活用した手書き文字読み取りシステム）やRPA（定型作業の自動化）導入による市業務の効率化

武蔵野市政 次の目標

- 常設型住民投票制度を確立する「住民投票条例」の制定
- 「武蔵野プレイス」などを活用した市民協働の一層の推進
- 「地域フォーラム」の活性化による地域課題への取り組みの強化
- 各種計画策定における市民参加の一層の推進
- 行政手続きのICT化による利便性の向上と情報弱者へのサポート
- 市の施設におけるWiFi環境の整備



個性かがやく 魅力と活力のあるまち

武蔵野市が「住みたいまち」として高評価を得ているのは利便性の良さに加え、個性的で魅力あふれる多種多様なお店や施設が存在していることが大きな理由であると考えます。こうしたまちとしての魅力をさらに磨いて、吉祥寺・三鷹・武蔵境の三駅圏それぞれの個性を活かした回遊して楽しめるまちづくりに取り組んでいきます。

松下市政 1期目の実績

- 「第二期武蔵野市産業振興計画」策定
- 「武蔵野市ふるさと応援寄付」での地元産業の紹介
- コンテンツを活用した新しい連携事業の実施
- マルシェやお祭りなどを公園や公共施設で開催
- 「武蔵野市暮らし地域応援券」発行
- 「中小企業者等テナント家賃支援金」の実施
- 空き店舗対策としての「商店会活性化出店支援金」実施
- 「都市型認定農業者制度」開始

武蔵野市政 次の目標

- 「むさしの創業サポートネット」で個性かがやく小規模店舗の出店を支援
- 「むさしの産業サポートネット(仮称)」を設置し、市内事業者をつないで新たな価値を生み出す
- 「商店会出店支援金」の継続
- 「暮らし地域応援券」で市民生活と市内産業を支える
- 農業振興・農地保全のさらなる推進



健全財政を市民の ために活かすまち

武蔵野市の財政は、人口増による税収アップを背景に良好な状態にあります。下水道や公共施設など都市基盤リニューアルを着実にこなしつつ、この4年間で156億円の黒字を達成しました。前市政からの繰越分も加えると、累計で224億円の黒字です。このようにして作ってきた健全財政を、市民の暮らしを支える「公共」の拡充に活かしていきます。

松下市政 1期目の実績

- 「下水道ストックマネジメント計画」の策定
- 下水道事業の公営企業会計への移行
- 桜堤に最新式学校給食調理場完成
- 市立小中学校の学校校舎の建て替えに着手(五中・一中から)
- JR武蔵境駅北口駅前施設「QuOLa」への武蔵野市政センター移設
- 子どもたちの声を活かした公園遊具の改修

武蔵野市政 次の目標

- 「公共施設等総合管理計画」を「市民のために何が必要か」という観点に立って改定する
- すべての世代の市民の居場所となるような武蔵野公会堂のリニューアル
- スポーツ・健康増進・文化拠点として総合体育館およびその周辺施設(スケートボード施設、テニスコート、軟式野球場、フットサル場など)再編に取り組む
- 市立小学校の校舎建て替えに合わせた自校式給食調理設備の併設
- 専門性のある職員の採用を拡大し、行政サービスの質をさらに高める